

4/14 (日) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2019J2 ■順位表 ■第8節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	山形	17p	+6	10	4	HO
2	甲府	16p	+8	13	5	A●
3	水戸	16p	+6	9	3	
4	柏	16p	+4	9	5	
5	琉球	15p	+5	15	10	
6	金沢	14p	+8	14	6	
7	大宮	14p	+3	10	7	
8	京都	12p	+1	7	6	H△
9	新潟	11p	+2	10	8	
10	岡山	11p	0	11	11	HO
11	徳島	11p	0	10	10	A●
12	横浜FC	10p	-1	7	8	A●
13	愛媛	10p	-1	6	7	A●
14	町田	10p	-7	5	12	
15	千葉	9p	-5	7	12	
16	東京V	8p	-1	8	9	
17	福岡	8p	-3	6	9	
18	栃木	8p	-4	6	10	
19	岐阜	8p	-4	5	9	---
20	長崎	8p	-5	4	9	
21	山口	5p	-4	14	18	
22	鹿児島	4p	-8	5	13	H△

次回HomeGame

第10節 vs.水戸ホーリーホック

4/21 (日) 14:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休:月曜日

today's guest : **V・ファーレン長崎**

2018 J1 8勝6分20敗 勝ち点30:18位

直近の対決と結果

2017/08/05
J2 - 26節@トラスタ
長崎 2-1 岐阜
クリスチャン
scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	V・ファーレン長崎
2019/04/07 J2 - 8節@ニスタ 愛媛 2-0 岐阜	2019/04/10 ルヴァン杯@ニッパツ 横浜FM 2-2 長崎
2019/04/03 J2 - 7節@中銀スタ 甲府 2-0 岐阜	2019/04/07 J2 - 8節@トラスタ 長崎 2-2 山口
2019/03/30 J2 - 6節@長良川 岐阜 1-1 京都	2019/04/03 J2 - 7節@三協F柏 柏 3-0 長崎

●雨が降り、花冷えのする3/30(土)第6節・ホーム京都戦。前半は京都に押し込まれるが耐え、後半に流れを取り戻したFC岐阜。カウンターで先制点を許してしまうがJ初出場の#24栗原尚平がJ初ゴールを挙げて1-1のドロー。続く中3日での4/3(水)第7節・アウェイ甲府戦では、こちらもJ初出場のGK #43 ヤン・オレ・ジーバースを中心に甲府の激しい攻撃を防いでいた岐阜だったが、後半に2点を奪われて0-2で敗戦。そして再び中3日での4/7(日)第8節・アウェイ愛媛戦は、試合開始直後に失点。その後、押し込むもののゴールは奪えず、逆にカウンターを浴びて失点し、0-2で敗戦となった。

この3試合の結果、2勝2分4敗・5得点9失点となったFC岐阜は、一気に順位を落として19位。もちろん、まだシーズン序盤だし順位は大きく変動する時期だから焦る必要はないのだが、チーム目標である『6試合1クールとし、1クール勝ち点10』は、第1クールは勝ち点8で果たせなかったし、第2クールは2試合で勝ち点ゼロという状況なのは事実だ。そして5試合未勝利なのは、その間わずか1得点という決定力不足が大きな要因だろう。攻撃陣の奮起に期待したい。一方、ホーム戦では2勝2分ではあるが、無敗というのは若干とはいえ明るい材料だ。アウェイ連戦では連敗してしまったが、ここホーム・長良川では勝利を掴み取り、再びチームを上昇気流に乗せたいところだ。さて、今節の対戦相手はV・ファーレン長崎だ。一昨年にJ2参入5年目でJ1昇格を果たしたクラブだが、1シーズンでJ2に降格。6年間続いた高木琢也監督体制から、今季は新たに手倉森誠監督を迎え、1年でのJ1復帰を目指しているが、現在は2勝2分4敗・4得点9失点で20位と出遅れてしまっている。しかし、前節の山口戦では2点差を追いついて勝ち点1を得ているので、チームの雰囲気は上昇傾向だろう。そして順位は岐阜の1つ下、勝ち点では並んでいる状況なので、今節は勝利への意欲をみなぎらせて、長良川に乗り込んでくるだろう。しかし、勝利への欲求は我々岐阜の方が勝っているはずだ。今節こそは、しっかりと勝利を掴み取りたい。

2006年全国地域L決勝では長崎を破ってJFL昇格を決めたFC岐阜だが、(Jリーグでの)長崎との通算対戦成績は3勝2分5敗・15得点19失点と負け越してしまっている。ただし、ホーム戦では2勝2分1敗・10得点10失点と若干分が良い成績だ。前回対戦した2017年8/5(土)第26節・アウェイ戦では、後半アディショナルタイムに悔しいPKをとられ、2-1で敗戦。一方、5/21(日)第15節のホーム戦では、激しい点の奪い合いの末、試合終盤に2点差を追いついて4-4で引き分けた。そして、岐阜が直近5試合での長崎戦で得た勝ち点は、この引き分けの1点だけ。今節こそは、長崎から5試合ぶりの勝利を掴み取りたい。

長崎で最も警戒すべき選手は、やはり#11 玉田圭司だろう。W杯出場経験も持つベテランFWは、前節で2ゴールを挙げて調子を上げてきている。また、1ゴールを挙げている#17 長谷川悠は、前述の地域L決勝では、岐阜に期限付移籍して共に戦った選手だ。そして彼ら長崎の攻撃陣を防ぐべき岐阜の守備陣だが、その要であるキャプテン#2 阿部正紀が、今節は累積警告で出場停止。岐阜のDFには怪我人も多く苦しいが、大木監督の采配と、起用された選手の奮起に期待したい。また、長崎のGK #30 徳重健太はビッグセーブを連発しているが、長崎の#11 玉田と同じく代表経験を持つベテランFW #11 前田遼一が、このゴールをこじ開ける姿を見てみたい。そして長崎には、岐阜の前監督である吉田恵ヘッドコーチがいる。3年前、2016年のJ2残留争いを指揮してくれた吉田前監督に「今のFC岐阜は違う」と思わせる試合結果を、特に当時を知る選手たちには見せてほしい。なお長崎には、16年に岐阜に加入した#41 大本祐規がいる。今節の出場は難しいと思われるが、岐阜戦以外での活躍を期待している。

5試合未勝利、中3日での3連戦など、選手のコンディションは厳しい状況ではあるが、そんな状況だからこそ、ここホーム・長良川で、僕らサポーターの拍手や声援を、選手たちの力に変えよう。最後まで選手の背中を押し続け、時には叱咤激励し、最後には勝利の歓喜を選手たちと共に迎えよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第6節】 岐阜 1-1 京都

●えーと、週末の試合日になると寒いのは今季何回目でしょうか（苦笑）。そして今節は雨まで降りましたが、ウチの運営は年度末の公共工事みたいにイベントぎっちり詰め込んできて（苦笑）お客さんも5,000人超え。本当にありがたいことです。さて、そーなると試合でも結果を出したいところ。しかし、ルーキーの#15会津雄生を右SBに置いて、京都のスピードスター#22小屋松知哉が止められるのか…と不安に思っていたら、試合開始10分程度で“勝負づけ”が済んでしまっただけ。これはヤバイと思ったのだけど、#15会津が対応に慣れてきたのか、岐阜の戦術修正が上手くいったのか、それとも京都が油断してたのか、その後は徐々に右サイドから崩されることが減っていった。そして攻撃にシフトしていく岐阜だが、なかなかシュートに持ち込めない。雨降ってボールがスリップする可能性があるから、遠目からでもどんどんシュート撃てばいいし、そのこぼれ球を狙えばいいのにと、あるいはミドルを撃つから相手DFが拡がって、ゴール前も突破できるようになるんだと僕は思うんですが。特に最近の公式球は軽くて縫い目が無いから滑りやすいはず。確か#15会津がスロインで手を滑らせてたよね？

とまあ、押し込んでいながらゴールを奪えないでいると、カウンターを受けてしまうのは、サッカーではよくある話。しかし、サイドに密集してボールを運ぶのはカウンターを受けられないようにするため、じゃなかったのかしら（苦笑）。その密集地帯の裏には広大なスペースが広がってて、そのスペース狙うカウンターをケアできないのなら、守備のやり方も変えないと…などと考えだした僕の暗い気持ちを引き払ってくれたのは、今季初出場のルーキー#24栗飯原尚平！少し無理な体勢だったけど、あそこで左足を振り抜いたからこそ、逆サイドのネットにボールが吸い込まれる訳で。いいよいいよ、思い切り良くシュート撃つ選手、僕は好きだよ！（笑）スタジアムも逆転に向けて上がるボルテージ。残念ながら逆転弾は奪えなかったけれど、今節もホーム戦で負けなかったことは、次に繋がる結果ではないかと思う。

そして、僕は試合後にサポ仲間に言われて気がついたというか「ずっと雨が降ってたと思ったけど小雨だったのかな？」と勘違いしてたんだけど『長良川のピッチに水たまりがない』（苦笑）。改良工事したばかりとはいえ、どんなマジックを使ったんだ（笑）。散水装置も改修されたし照明もLED化されたし。それ以前にも何度か改修工事がされて、ホント、このホームスタジアム・長良川も良くなっていくなあ…と感じた。ホント、感謝です…次はメインスタジアムの屋根の延長かしら？（笑）（ささたく）

●おもしろかった。雨はざんざん降るし、寒かったうえに勝てなかった。けど、おもしろかった。振り返ってみると、そういう試合だった。やっぱり、点が決まると湧き上がるモノがあるよね。それがリードされた終盤で、決めたのが途中出場でJ初出場のルーキーとくればなおさらだ。しかも、その選手が24番だっていうね。いや、もう、こんなオイシイことないですよ！だからこそ、いっしょにバンザイ四唱やりたかった……。

試合の内容、展開とも十二分に勝ち点3が取れそうな雰囲気。最終ラインの真ん中に元日本代表のコワイ選手を置いただけでなく、ほぼ5バックで守ってた割には、ウチの選手はさほど窮屈そうな様子も、攻めあぐねている様子もなかった。そんな中で、個人の能力、フィジカルにモノを言わされ、裏を衝かれての失点。よく見る光景とはいえ、もったいないの一言に尽きる。ただ、昨季の京都戦のように、点を取られて腰が引けたようになるのではなく、果敢に戦ってくれたこと。それはよかった。リードしていた昨季と追いつける立場のこの試合では状況が違うのは確かだけど、それを差し引いても、選手達の闘志と長良川の雰囲気はよかった。逆転してたら『長良川劇場』だったんだけどなあ。

あ、ひとつだけ残念だったのは、インタビューを終えた栗飯原が一人挨拶に来た時に「栗飯原！」とコールしてやらなかったコト。ま、次に決めてくれた時に思いっきりコールさせてもらおう。早いトコ決めちゃってください。楽しみにしています！（ぐん）

【第7節】 甲府 2-0 岐阜

●中3日での3連戦、2戦目のアウェイ戦。しかも上位・甲府を相手にどのような選手・戦術で臨むのか…と思っていたら、なんとここで2シーズン（文字通り）不動の守護神#25ビクトルに替えて#43ヤン・オレ・ジーバース！？（驚愕）そして2トップも#11前田遼一と#18石川大地…えーと、これっていわゆる“ターンオーバー”ってやつですか？（苦笑）ちなみに僕は賛成派なのですが、去年のウチには存在しなかった単語だと思うのです。ちなみに甲府は、僕らよりもさらにターンオーバーしてましたね（笑）。

さて試合は、甲府の伝統的な堅守速攻に、岐阜のポジションサッカーが苦しむという、ある意味では試合開始前から分かっていた構図。その固い守備を崩すための#11前田の起用だったと思うのだけれど、#11前田には中央で勝負して欲しいところを、甲府の守備陣がサイドに追いやっていき、連携も不足していてボールがなかなか繋がらない。それとも、甲府のカウンターを警戒して岐阜の重心が前に行かなかった、と見る方が良いのかもしれない。その成果もあって、岐阜の守備陣は甲府の攻撃をしっかりと防いでいた。しかし、後半になると甲府の攻撃のギアが上がり、2失点を喫してしまう。こうなると、岐阜もゴールを奪うべく攻撃に重心を置かなくてはいけないのだけれど、甲府に比べると明らかに敵陣へボールを運ぶスピードが遅い。その間に甲府の選手たちは帰陣して守備を固めてしまう。こうなってしまうと、上位のチーム相手では、やはり今の岐阜の攻撃力で正面突破することは難しい。ショートカウンターを狙うなど、他の選択肢を使わないと、上位から勝ち点を奪えない。それを感じさせる結果となってしまった。（ささたく）

●おもしろくなかった。語弊を恐れず、試合の印象を一言でまとめるとこうなってしまう。まあ、今回の岐大通的京都戦と併せて読んでいただければ……と。比較すると、どうしてもね。こうなってしまうんですよ、現地組としては（苦笑）。ミッド・ウィークに組まれたアウェイでの試合。スタメンを見て、ビックリしたのなんの。コレ決めたの、ホントにウチの監督なの？今までなら、「頑なに」と言っても差し支えないだろう？と思うくらいにメンバーを固定していた監督が選んだメンバー。しかも、2トップが前田サンと大地なんて。自分の中では『18番』のイメージが強い前田サンと、リアル18番の大地。いや〜、コレは見ものですよ。どんな展開になるのかな？とワクワクしていたんですが……。ボールが渡らなきゃ、彼らを使いこなせなきゃ、もうどうしようもないですね。全然仕事にならなかったな、二人とも。厳しいワ、甲府のディフェンス陣。まさか、いきなり、ぶっつけ本番をやるハズがないので、十分練習してきた組み合わせだと思いたいんですが、やっぱり実戦とは違うということですね。それから、ついにビクトルがベンチ。満を持して登場のヤンでしたが、まずまずの内容だったのではないのでしょうか？それだけに2失点目が残念でした。ゴールラインは割ってないように見えたけど、それは言っても詮のないこと。判定は判定です。それでも、宏矢とユーヤが出てからは、いくつかチャンスも作れました。できれば休ませてあげたかったし、ベンチもそう考えていたんですが、やはり、欠くことのできない選手だということなんでしょうね。

山梨中銀スタジアムの日陰には雪が残っていましたが、甲府市内には桃の花が咲き始め、スタジアム周辺の桜はほぼ満開。目の保養は出来ました。ウチはまだ三分咲き……といったところでしょうか？今後の成長に期待しましょう。（ぐん）

【第8節】愛媛 2-0 岐阜

● やっと、あったかい試合日がやってきた（苦笑）。ちょうど桜が満開のアウェイ・ニンジニアスタジアム。心密かに、この桜を今日で全部散らせてみせよう（笑）と、意気込んでやって来たのだけれど。

初スタメンの#4 甲斐健太郎と#36 タビナス・ジェファーン、というのは良い…だけど、後ろからビルドアップする岐阜の戦術で、左サイドに初スタメンを2人置いて大丈夫なのかな？と思っていた僕の不安は、試合開始直後に現実のものとなってしまった。おそらく愛媛も狙っていたのだろう、立ち上がりを攻め、試合に入り切れていない岐阜の選手たち隙を突いて先制点を奪う。その間わずか1分弱。これはどう考えてもダメだ。猛省していただきたい。

こうなると、愛媛は気楽になり、守備を固めてカウンター狙いにシフト。でも、愛媛は前節の甲府ほど堅守という訳ではないから、突破できるはず！…と僕は思っていたし、実際に何度か決定機を作ったのだけれど、そこで決めきれない。すると、愛媛の守備も徐々に対応していき、決定機も作れないようになっていく。愛媛はDFラインを揃えて岐阜の選手を前に置いて防ぐ守備をとっていた（と思う）。オフサイドを回避して突破するためには、ドリブルで運ぶか、スルーパスを通すか、あるいはそのDFラインの前からシュートを撃つか、しかない（と思う）。だけど、ゴールを奪えないうちに気持ちが後ろ向きになっていくのか、“ボールを受けたらパス”しか選択肢に入っていないプレー、あるいはパスの速度を上げようと考えすぎて視野が狭くなっている（と思われる）プレーが多く見られるようになっていく。気になるのは、2トップの#9 山岸や#10 ライザがDFラインの裏を抜けようと動き出すと「一步後ろ」にボールが来て止まってしまうシーンが何度もあるところ。足元へのパスに気持ちが向きすぎていると思う。それに、ウチは若い選手が多いのだから、良い意味で“自分が決める！”という貪欲なプレーを見せて欲しい。まずは自分で仕掛けるからこそ、相手の守備も崩れ、中間の選手も活かせるのだと思うのだけれどなあ…もちろんフォーメーションを崩して仕掛けるのはリスクがあるけれど、サッカーはパスの本数やボールの支配率で、試合の勝敗が決まるスポーツじゃないのだから。

悔しい敗戦。そしてまたしても、個人的には“魔境・ニンスタ”で勝利を見ることができなかった。今年こそはと思ったんだけどなあ…（溜息）。

アウェイで今季初の連敗。でも、次はホーム戦だ。次こそ、今節こそ勝利を掴む！（ささたく）

● このところの約十年。毎年松山に出かけ、トータルでは15回以上は行ったかと思いますが、初めて『松山の鯛めし』を食べました。『宇和島の鯛めし』は何回か食べたんですけどね。甲乙をつける気はないです。いつそのこと、両方いっぺんに食べたい。あと、キレイだったなあ、砥部動物園とその周辺の桜。満開でした。イイ目の保養をしました。あー、桜の写真を撮り忘れた。まあ、それだけのんびりとスタジアムに着いて、そそくさと退散したワケですね。ああ、そうか。試合の話をしなきゃね（苦笑）。

とはいえ、決して、早々に退散したくなるような内容だったというワケではないです。誓って言いますが、渋滞に巻き込まれただけでして。これは、同行の仲間と「勝敗に関わらず、笛と同時。」と打ち合わせ済み。昨季の下関の時とは全然違います。ただね、この愛媛に負けたのは正直ツライ。今季、ここまでホームのニンスタで勝てなかったのがわかりました。まあ、ウチも愛媛の7番から同じように辛辣なコメント出されてますからね。お互い様でしょうか？

確かに、開始30秒での失点は論外。タビナスは現状がよく理解できたでしょう。それでも、攻撃の面では見せ場も作りましたが、今のままでは帰る場所もなくなります。ただ、昨季も同じような場面を見たような気がするなあ。この試合で、

トイメンのタビナスをチンチンにした選手が、ウチの26番だった時にね（笑）。とにかく、精進あるのみです。ガンバレ！タビナス。

で、なんで勝てなかったのかな？という「得点できなかったから。」それに尽きます。甲府戦とは比較にならないくらいにチャンスがありました。でも、GKとの一対一が決められないようではね。愛媛の7番は決めましたから。結局、そういうトコだぞ？ユーヤ。約束したやん、「10点取ります。」って。当然、後半も前がかりになって、決めきれないままカウンター。コレも『あるある』です。総括すると『選手の責任』。ボクは、そう思ってます。もちろん、監督の責任が全くないとは思いません。前述のタビナス起用が裏目に出たワケですから。ただ、それは愛媛の6番や8番がウチにいた時のような理由もあるんでしょう。

間違いなく、ウチにも決定機はありました。でも、そこから先は、全部が選手次第。どんな監督だろうと、その部分は如何ともしがたい……のではないのでしょうか？もちろん、今の選手たちで『大木さんのサッカー』をやるのか？出来るのか？という話もあるでしょう。事実、そういう意見も目にしました。でも、ウチの懐に余裕があるワケじゃなし。今はまだ『監督云々』は時期尚早。少なくとも、ボクはそう考えます。だからって、楽観視はしてません。降格の危機感は残念ながらありますね。今はまだ『多少』ですが。

次節以降の4試合。長崎、水戸、栃木に琉球。現在の状況では、いずれもカンタンな相手ではないですが、それでもここら辺から勝ち点を取らないと何ともならない。あと、気になるのはこの試合もスタメンがヤンだったこと。いや、ヤンのパフォーマンスに不満があるわけではないんです。ただ、もしかすると、そういうコトなのか？と……。さてさて、いったいどうなりますか。ハラハラドキドキです。今度の日曜日は、またまたあいにくの天気になりそうですが、とりあえずは自分のできるコトをやる。それだけは変わらない。ニンスタの現場からは以上です。（ぐん、）

